

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月10日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520184

研究課題名（和文） 日本文学に描かれたタイ国文化表象の分析研究

研究課題名（英文） An Analytical Study of Japanese Literary Representations of Thai Culture

研究代表者

久保田 裕子（KUBOTA YUKO）

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30262356

研究成果の概要（和文）：日本とタイ国の関係が緊密化した明治期から現代に至るまでの日本近代文学に関して、タイ国を描いた文学テキストの調査・収集を行った。収集した文学テキストを基盤として、両国の歴史的関係性を示すタイ国内で刊行された日本語雑誌などの同時代資料と照合し、タイ国をめぐる文化表象が構築される過程を明らかにした。三島由紀夫、村上春樹などの日本近代文学のテキストを分析し、そこに描かれたタイ国の表象分析を行った。

研究成果の概要（英文）： I conducted a survey and collected modern Japanese literary texts containing depictions of Thailand, dating from the Meiji period, when closer relationships were formed between Japan and Thailand, up to the present day. Using this collection as a textual corpus, I compared it with contemporary materials such as Japanese-language magazines published in Thailand that indicated the historical relationship between the two countries. This clarified the processes by which cultural representations of Thailand have been constructed. Finally, I carried out a representational analysis of depictions of Thailand in modern Japanese literature by analyzing texts by authors such as Yukio Mishima and Haruki Murakami.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本近代文学 タイ国 表象分析 国際情報交換 国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降の日本近代文学研究の領域

において、文学テキストが異文化をいかに表象し、イメージ化してきたかという問題系が再検

討されるようになった。それは比較文学研究、地域研究などの隣接領域の問題編制とも共通する現代的課題であった。その結果、欧米からの言語的・文化的輸入の現象分析だけではなく、アジア諸国との関係に目を向けて日本ーアジア相互の影響関係について考察する研究が増加した。欧米からアジアへという研究対象の拡大により、外側から日本文学を見直す視点が導入された。さらに日本近代文学のキャノンを解体し、周縁的なものとして扱われてきた対象や領域を研究対象にすることによって、多角的な視点を導入した新たな日本文学史の再構築が試みられるようになった。このような文化の力学そのものの見直しを通して、日本近代文学に見られる異文化の受容や、文化表象の分析という問題について、地域や時代を限定して差異と特性を考察する必要性が高まった。

さらにアジアの中でも歴史的関連性の深い東アジア地域だけではなく、東南アジア地域を日本文学研究の射程として導入する研究動向が見られるようになった。南方政策下の1930～40年代において、〈南洋〉がいかに表象されてきたかという問題系が提示され、『作家のアジア体験ー近代日本文学の陰画ー』（芦屋信和・上田博・木村一信編、世界思想社、1992）、『南方徴用作家ー戦争と文学ー』（神谷忠孝・木村一信編、世界思想社、1996）など、東南アジアを含めた地政学的範囲を拡大した成果が増加した。小説の中で描かれた「南方」は、1940年代までの日本の旧植民地地域における作家自身の戦争体験を基盤としている。その中でタイ国は太平洋戦争中、日本と同盟関係にあったが、タイ国と日本近代文学との関係に関する調査・分析は十分になされてこなかった。タイ国を含めた「南方」「南洋」と呼ばれた地域の個別性が、文学テキストに反映されていった経緯と表象の分析を考察する研究の重要性が高まっている。

## 2. 研究の目的

明治期の南進論の時代から、1940年代の〈大東亜共栄圏〉構想に組み込まれた時代を経て、現代に至るまでの日本近代文学テキストの背後には、日本・タイ国をめぐる歴史的関係性が反映している。本研究は、文学テキストと同時代言説を示す資料とを照合しつつ分析し、日本近代文学における異文化表象の問題について考察することを目的とする。太平洋戦争前後のタイ国をめぐる言説には、当時の日本人が持っていた〈南洋〉幻想が反映されていた。1960年代以後の高度経済成長期には日本企業がタイ国に進出し、経済的規模での日タイ関係の再構築が行われた。1980年代以降は、観光地として発展を遂げたタイ国に多くの日本人が訪れるようになった。このような戦後の歴史的関係性の中で、三島由紀夫『暁の寺』、松本清張『熱い絹』、宮本輝『愉楽の園』、村上春樹『タイランド』などの作品が登場し、現在もタイ国のイメージ表象は観光・セクシュアリティといった枠組みのもとに再生産されている。東南アジアにおいて日本文学・文化の受容が広がりを見せる現在、本研究においては、明治期から現在までのタイ国と日本文学との関係性とその特性を明らかにするため、日本近代文学に描かれたタイ国のイメージ表象を分析することを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 日本近代文学とタイ国の関係性について明らかにするために、研究の基礎資料となるタイ国を描いた日本近代文学のテキストを調査・収集した。

(2) タイ国で刊行された図書・雑誌などの日本語資料を調査した。文学テキストの背後には両国をめぐる歴史的・文化的コンテクストを反映した同時代言説がある。両者の関係性について分析するために、日本の国会図書館、東京外国語大学附属図書

館、外交史料館の他、タイ国ナショナル・ライブラリー、タイ国公文書館、チュラーロンコーン大学附属図書館、タマサート大学附属図書館で調査を行った。

(3) 日本近代文学において、タイ国が表象されてきた経緯を文学テキストやタイ国で刊行された日本語の同時代資料の分析を通して分析することで、タイ国をめぐる文化表象の諸相について考察した。収集した資料の調査結果を基盤として、タイ国がどのようにイメージ化され、表象されてきたかという問題について、明治時代から現代まで通時的に整理した上で、特に次のテーマを描いたテキストを中心化して分析した。

- ① 明治期南進論の言説が広まった時代を反映した小説
- ② 1940年代の太平洋戦争の時代における〈南洋〉表象を反映した小説
- ③ 1960年代以後のベトナム戦争と高度経済成長期の時代を反映した小説
- ④ 1970年代以後から現在までの、観光のまなざしのもとにとらえられた表象を反映した小説

(4) 日本文学・文化とタイ国をめぐる関係性の分析研究という共通の研究課題を持つタイ人研究協力者との共同研究を通して、国際研究者交流を行った。さらに日本・タイ国の市民・学生を対象とした公開講座やセミナーを通して研究成果を公表した。

#### 4. 研究成果

(1) 明治時代から現代に至るまでの日本近代文学の中で、タイ国の歴史と文化について描いた小説テキストを調査・収集し、表象分析の基盤となる作業を行い、現時点までの調査に基づく目録を作成した。今後とも継続して目録を修正する予定である。

(2) タイ国で刊行された日本語図書・雑誌について調査した。1940年代に刊行さ

れた「シヤム国日本人会会報」、1960年代に「泰国日本人会」によって刊行された雑誌「クルンテープ」等の一部を入手したが、これらは日タイ関係を知るための同時代資料となる。調査した限り、タイ国内にはほとんど戦前の日本語図書・雑誌は保存されていないことがわかったが、1960年代以降に刊行された図書・雑誌は確認できた。日本国内にあるタイ国に関連する歴史的資料を調査する必要がある、今後も調査を継続する予定である。

(3) 収集した資料を基盤として、日本近代文学に見られるタイ国表象の分析を行った。日本・タイ国で刊行された日タイ関係をめぐる社会・文化的同時代言説と文学テキストとを比較・照合することで、イメージが構築された経緯をたどった。日タイ関係が緊密化した明治時代から現代に至るまでの日本近代文学テキストの中で、明治期南進論の時代から、昭和10年代の〈大東亜共栄圏〉の時代、日系企業がタイ国に進出した高度成長期、観光地としてのイメージが消費される現在まで、タイ国をめぐる文化表象が成立・流通していたことを明らかにした。特に太平洋戦争前・戦後を通じた社会的・文化的関係性の中で、歴史小説、冒険小説、ミステリー、児童文学を含む多様なジャンルの作品が描かれていることを確認した。本研究を通して、これまで言及されることの少なかった近代日本文学におけるタイ国の文化表象という問題について、両国の歴史的関係性と照合しつつ考察し、その結果に基づき図書・論文・学会発表・講演等を通して日本とタイ国において成果発表を行った。

(4) 地方自治体・国際交流基金と共催事業を行い、日本とタイ国において科学研究費補助金による研究成果を公表した。日本とタイ国の市民や学生に研究成果を公表して学術研究と国際交流の接合をはかるため、次のような事業を行った。

- ①福岡市文学館と共催した市民公開講座「もうひとつの〈日本〉」を3年連続で実施し、発表者として研究協力者の日本近代文学を専門とするナムティップ・メータセートを招聘した。またタイ国・韓国における日本文学・文化の受容状況に関するワークショップを実施した。
- ②国際交流基金と共催し、タイ国チェンマイ大学において、日本文学を学ぶ学生や一般市民を対象とした日本文化セミナー「文学からみる日本とタイ」を研究協力者のナムティップ・メータセート（日本近代文学研究）、平松秀樹（タイ文学・文化研究）と共に実施した。
- ③タイ国チュラーロンコーン大学において、日本文学研究者、大学院生に対して講演を行い、相互に情報交換をする国際研究者交流を実施した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 久保田裕子、言葉は〈出来事〉を超えることができるか—村上春樹「タイランド」論—、日本文学、査読有、第61巻第8号、2012、pp. 24～33
- ② 久保田裕子、太平洋戦争前後におけるタイ表象イメージの変容と接合、第35回国際日本文学研究集会会議録〈場所〉の記憶—テキストと空間、査読無、2012、pp. 87～114
- ③ 久保田裕子、日本文学はタイをどのように描いてきたか、タイ国日本研究国際シンポジウム 2010 論文報告書、The International Symposium on Japanese Studies in Thailand 2010、査読無、2011、pp. 173～191
- ④ 久保田裕子、忘却された戦争—松本清張『熱い絹』と東南アジア—、松本清張研究、査読有、第12号、2011、pp. 118～135
- ⑤ 久保田裕子、王妃の肖像—三島由紀夫『暁の寺』におけるタイ国表象—、福岡教育大学国語科研究論集、査読無、第52号、2011、pp. 19～36
- ⑥ 久保田裕子、三島由紀夫と松本清張の東

南アジア—「創作ノート」という方法—、越境する三島由紀夫 三島由紀夫研究、査読無、通巻⑩、2010、pp. 112～123

〔学会発表〕（計12件）

- ① 久保田裕子、日本語で描かれたタイランド—戦争と観光、2012年度立命館大学国際言語文化研究所冬季企画Ⅲ 国際ワークショップ トラベルライティングという領域、2013年3月27日、立命館大学衣笠キャンパス
- ② 久保田裕子、タイランド—観光の夢とロマンス—、福岡市文学館・2012年度科学研究費補助金・基盤研究（C）「日本文化に描かれたタイ国文化表象の分析研究」共催、市民公開講座・もうひとつの〈日本〉 part 3—韓流とタイランドからのまなざし、2013年3月9日、福岡市赤煉瓦文化館
- ③ 久保田裕子、松本清張と三島由紀夫—二人の作家の出会い、清張サロン特別講演会、2012年11月30日、北九州市立松本清張記念館
- ④ 久保田裕子、ナムティップ・メータセート（チュラーロンコーン大学講師）、海野圭介（国文学研究資料館・総合研究大学院大学准教授）、国際ワークショップ「日本文学を海外で学ぶこと、教えること」、2012年1月16日、福岡教育大学視聴覚ホール
- ⑤ 久保田裕子、ナムティップ・メータセート（チュラーロンコーン大学講師）、タイで受容される日本の小説と文化、福岡市文学館・2011年度科学研究費補助金・基盤研究（C）「日本文化に描かれたタイ国文化表象の分析研究」共催、市民公開講座・もうひとつの〈日本〉 part 2—タイで受容される日本の小説、映画、サブカルチャー、2012年1月13日、福岡市赤煉瓦文化館
- ⑥ 久保田裕子、ゼロの焦点、清張サロン特別講演会、2011年12月9日、北九州市立松本清張記念館
- ⑦ 久保田裕子、太平洋戦争前後におけるタイ表象イメージの接合と変容、第35回国際日本文学研究集会・第2セッション⑤〈場所〉の記憶—テキストと空間—、2011年11月26日、国文学研究資料館
- ⑧ 久保田裕子、文学からみる日本とタイ、チェンマイ大学日本研究セミナー・国際交流基金・科学研究費補助金・基盤研究（C）「日本文学に描かれたタイ国文化表象の分析研究」共催、2011年8月19日、

- チェンマイ大学人文学部、タイ国
- ⑨ 久保田裕子、三島由紀夫と松本清張の描いたタイー1960年代の日タイ関係から見る日本文学一、チュラーロンコーン大学日本語・日本文学専攻修士課程客員教授講演会、2011年8月17日、チュラーロンコーン大学文学部マハーチャクリーシリントンビル、タイ国
- ⑩ 久保田裕子、日本近代文学に描かれたタイ国表象ー三島由紀夫『春の雪』の留学制度を中心にー、2011年度日本タイ学会第13回研究大会、2011年7月2日、愛知大学豊橋校舎
- ⑪ 久保田裕子、波瀾剛(九州大学准教授)、ナムティップ・メータセート(チュラーロンコーン大学講師)、福岡市文学館・2010年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「日本文化に描かれたタイ国文化表象の分析研究」共催、市民公開講座・もう一つの〈日本〉part 1、2011年1月22日、福岡市赤煉瓦文化館
- ⑫ 久保田裕子、日本文学はタイをどのように描いてきたか、タイ国日本研究国際シンポジウム、  
The International Symposium on Japanese Studies in Thailand  
2010、2010年10月26日、チュラーロンコーン大学文学部マハーチャクリーシリントンビル、タイ国

〔図書〕(計1件)

- ① 久保田裕子、笠間書院、笠間ライブラリー 梅光学院大学公開講座論集 三島由紀夫とその時代、2011、pp. 32~50

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

久保田 裕子 (KUBOTA YUKO)  
福岡教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：30262356

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

研究者番号：

### (4) 研究協力者

ナムティップ メータセート  
(NAMTHIP METHASATE)

チュラーロンコーン大学・文学部・講師

平松 秀樹 (HIRAMATSU HIDEKI)  
大阪大学・外国語学部・非常勤講師